

以上、よろしくお願ひいたします。お願ひします。

幹事社 ではいくつか幹事社のほうから質問させていただきます。確認なんです、50才の男性とおっしゃいましたが、50才ですか？

U あ、50才代でございます。

幹事社 それはおいくつかというの？

U えー、まあこれはもう50才代ということで発表させていただきたいと思ひます。

幹事社 東京都在住ということですが、東京都のどちらにお住まいの方ですか？

U まあ先ほど申しましたように、その、立川へ帰ってこられましたからそちらのほうですけれども、あの、これはあの、えー、いままでの、えー、クラブとの取り決めによりまして、あの、指定感染症の発表のときにはこの段階での発表ということにさせていただきたいと思ひます。

幹事社 次に都内の医療機関ということですが、こちらはどちらになりますか？

U これにつきましても、都内の医療機関ということでご承知置きたいと思ひます。

幹事社 これは立川のほうの病院だということでもう一部報道で流れているんですけども、

U はい。

幹事社 それはそういうことでよろしいですか？

U えー、まあ、立川の近くに住んでいらっしゃる方ですから、まあそちらのほうへ。

幹事社 都立立川病院だということになってますけれども？

U あのう、我々としてはここでご説明させていただくのは都内の医療機関ということでご説明させていただきます。

幹事社 都立立川病院の可能性を否定はされないということですか？

U あのう、まあ否定はいたしません。

幹事社 わかりました。都内の医療機関を受診されたということですが、この方が最初に受診された時間、そして感染症医療機関に転院した時間というのはどういう感じになっているんでしょうか？

U えーっと……………んー……………

幹事社 7月1日の朝帰ってこられたのですか？

U はい、朝帰ってこられた、7月1日に受診されまして、この7月1日の7時に病院のほうから東京都の疾病対策課のほうに連絡がございまして、7時半に我々のほうに連絡がございました。それで、この感染症指定医療機関のほうに8時に、えー、あ、すみません、8時に感染症指定医療機関、これは国際医療センターでございまして、そちらのほうへ搬送することを決定いたしました。えー、それで、午後8時に保健所のほうからそちらのほうに参りまして、患者さんもそちらのほうの感染症指定病床のほうにお移りいただきました。

幹事社 立川の病院を最初に受診された時間というのは？

U えーと……1日の正午、お昼に、えー……………えー、受診されまして、それで迅速でH5プラスということでございまして、そこで入院、即入院ということでございます。

幹事社 ごめんなさい、最初正午に病院に行かれて、すぐにH5だと？

U H5、H5でございまして。

幹事社 ということは……？

U あ、すみません、すみません、A型ですね。

幹事社 A型はすぐに判明した、と？

U そうです。

幹事社 受診されてすぐ検査をされて、

U A型を確認して、それで念のためにということで入院をされたということでございます。

幹事社 A型と診断されたあとはどういう流れになっているんでしょうか？ さらに検査とか？

U えーっと、肺炎等の症状がございましたので、実際レントゲンを撮ったりとか、まあ検査を進めまして、そして治療に移りました。

幹事社 はあ。それはふつうのインフルエンザということで治療されたということですね？

U そうですね、はい。

幹事社 それでなぜ夜の7時になって感染症医療機関のほうに転院ということになったんですか？

U これにつきましては病院のほうでこの方がベトナムへ行っておられたということから、ベトナムでも、まあベトナム、これはもう去年からずっと鳥インフルエンザの患者さんが出ておりますので、それを疑いまして、えー、その検体を、をー、都立の健康安全センターのほうへ送りまして、PCR 検査をして H5 ということを確認したということでございます。

幹事社 H5 が確認された段階で転院したということですね？

U あの、おー、確認する前に移しております。

幹事社 ほう。ベトナム帰りだということはいつわかったんですか？

U え、あのう……これはあの、実はその患者さん、病棟の中で患者さんが他の方に話をしておられたということ、これを看護婦が聞いたということで、まあ、えー、患者さんをまあ、看護師さんが綿密に観察していた結果だと思っております。

幹事社 なるほど、当初はふつうのインフルエンザ患者として入院されて。ということは、他の人が聞いていたということはふつうの病室？

U そうですね、はい。

幹事社 何人部屋ですか？

U いやこれ4人部屋でございます。

幹事社 4人部屋。で、途中でベトナム帰りだということ？

U はい。あの、念のために、感染症、いや、国立国際医療、すいません、感染症の指定病床がある国立国際医療センターのほうへ移したということでございます。

幹事社 ふつう、最初に海外から帰ってきたとかいうことは聞かないんですか？

U あのう……

幹事社 通常そのあたりはどうなっているんですか？

U 一般的には、その、インフルエンザで来られた方に、おそらく全て海外から帰ってきたかどうかということを見問診するということはないと思います。まああの、これは患者さんのほうが「今日はこういうことだから」ということで言っていたら、その、別ですけども。

幹事社 ベトナムのほうですすでにこの2~3日前からだいぶ患者が出ているという情報はあったというように聞いているんですけども、そういうことは全く関係なく通常通り診察をしていたということですか？

U あ、あの、まあ、うー、これはあの、うー、昨年からもう、我々の方としましてはインフルエンザが特に流行っていたところにそういうことを注意喚起するような通知をお出ししております。これはいまはその、インフルエンザ様症状というふうにお話を申し上げておりますが、実際患者さんを現場で見るときには、あの、まあ発熱・咳という主訴で、訴えていらっしゃるわけでございます。まあ、インフルエンザというよりは風邪ですね、風邪で来られる場合に、それは、我々としても全ての患者さんにそれは念頭に置いていただきたい、お医者さんにそれを聞いていただきたいというのはもう当然でございますけれども、それを聞いていなかったからといって、あの、そのお医者さんに手落ちがあるとかそういうことは我々考えておりません。

幹事社 ほう、しかし、そういう通知をして啓発はしていた、だがベトナムでこういう状態になっているのに聞いていなかったということは、周知が足りなかったということにはなりませんか？

U あ、これはもう、我々としても繰り返し周知して、あの、ゴールデンウィークとかお正月とかそういうシーズンのときにも繰り返し皆さまにお願いして、あの、東南アジアへの旅行のときには気をつけていただきたいという周知を繰り返しております。これはもう、我々としましては何度も繰り返しそれをお願いしてきたかと考えております。

幹事社 厚労省としては何度も繰り返し通知をしたのでやっているはずだ、と？

U はい。いやもう、逆に、看護師さんたち、病棟の方々がよく観察をしていただいて、そういうことを聞いていただいて、早くそれを聞き取っていただけたと思っております。

幹事社 とりあえずそんなところで。他に。

質問 この50才の男性がベトナムに渡航した理由は何ですか？

U えっと、まああの、これはもうお仕事で、ということで。

質問 出張ですか？

U はい、そうです。

質問 この出張は一人で行かれたんでしょうか？

U 同行者は、ここにありますように「不明」ということでございます。

質問 同行者不明。

U はい。

質問 それはいま確認中ということですか？

U はい、そうです。

質問 そうですか。鳥からヒトへの感染なのか、ヒトーヒトなのかということなんですが、この方がベトナムで鳥に接触するようなことがあったんでしょうか？

U これにつきましても、あの、現在この方に聞いておるところでございます。

質問 わかりました。それから、いま N の形がわからないということですが、この検査の結果はいつごろわかりますか？

U えーっと、これはまあ、あの、実際検査をやり始めてから 5~6 時間かかるんですが、その前処理とかいろいろございますので、いまはこれは感染研のほうでお願いしております。これは結果がわかり次第、こちらのほうで、クラブのほうで発表させていただきたいと思っております。

質問 わかりました。

質問 この方が乗っていた航空機の便名と、立川に帰ってきたバスの出発時間を教えてください。

U はい、すいません、これは後ほど係の者から、その便名と時間についてお配りしますので、

質問 あ、はい、じゃあ人数も一緒に併せてお願いできますか。

U はい。

質問 ヒトーヒト感染の可能性もあるとのことですが、仮にそうだった場合どれくらいの被害が出そうですか？

U えー、これはもう全くわかりません。いまのところ、あの、ベトナムのほうでもヒトーヒト感染ということは確認されておられません。ベトナムの患者さんにつきましても。この、ヒトーヒト感染かということにつきましては遺伝子を見ればわかるということではなくて、実際にその患者さんから本当に人に移ったかどうか、あの、いちばん典型的なのは、治療をしている医療関係者とか、その、ご自宅から病院へ連れてくる間のそばにいた人とか、そういう方々に感染したかどうか、という、その、感染の実態ですね、我々、医学的な言葉で疫学的な調査と言いますけれども、それを見ないとヒトーヒト感

染がありうるのか、鳥ヒト感染のものなのかということはありません。そういう意味ではこの方の病状なり、ベトナムでいまだたくさん出ているという症例につきまして、WHO ともどもきちんと見ていきたいと考えております。

質問 厚労省のホームページには「新型インフルエンザがスペイン風邪並みだった場合国内で64万人死亡する」と出ているんですよ。今回もそれくらいの可能性があると考えていいわけですね？

U あのうち……このまずインフルエンザの病原性がどれくらいなのか、そしてまたその感染性がどれくらいなのか、というのはまだ全くわかっておりません。あのうち、それがわかるまでは、あの、厚生省（発言ママ）のほうで出しましたシミュレーション、これはスペイン風邪のときのかかなり重いことで判断しておりますけれども、この状況では、現在の我々の知りうる状況ではそのような判断はできません。それ以前に、これがヒトーヒト感染の、あの、いわゆる新型インフルエンザ、ヒトーヒト感染のあり得る新型インフルエンザであるかどうかは確定しておりませんので、わかりません。

質問 そういう可能性があるということは当然それへの対策をとるべきだと思うんですが。先ほど一般の同乗者に、たとえばリムジンバスと一緒に乗っていたら保健所に届けてください、という話をしておられました。当然、外国人が乗っている可能性もあります。そういうところに対してはどういうふうにしていくおつもりですか？

U あのうち、正直言って、難しいです。あのうち、うー、皆さんもご存じだと思いますけれども、イエローカードですね、あの、機内で健康状態を書いていただくカードをそのままあ出していただいている方についてはフォローアップできますけれども、えー……………あのうち、たとえばリムジンバスに乗ってこられた外国人がいらっしゃって、その方がもうニュースも何も新聞も見られないということでしたらそれは非常に難しいだろうと思います。まあしかしながら、それを我々としてはできる限りの方を把握して、その、このインフルエンザの状況がどうなるのかということを確認していきたいと考えております。

質問 いま現在鳥インフルエンザで東南アジア諸国で死んでいる方がいて半数近くの死亡率というところがあると思うんですが、仮に今回それでヒトーヒト感染になった際、外国人が明日朝の満員電車に乗ったら爆発的に感染が広がる可能性を否定できないと考えてよろしいですか？

U えー、それはわかりません。実際もしそのような可能性があるのなら、いまもベトナムでそれくらいの爆発的な、ヒトからヒトへの、いまおっしゃいましたような感染の可能性があれば、いまおそらくハノイ、ホーチミン病院とかハノイ病院の職員が全部罹っているだろうと思います。そのような報告はまあいまのところ聞いておりませんし。

その感染力、病原性についてはいまのところ我々のところで断定するわけにはいきません。

質問 潜伏期間は何日ぐらいですか？

U 潜伏期間は約1週間といわれております。

質問 では1週間以内に、

U そうですね。

質問 爆発的にベトナムで広がったわりにはまだ現われていない可能性もあると考えてよろしいわけですね？

U ん、とにかくそのベトナムでの状況、それから、この……の患者さんのそばにいられた方の状況をまずはきちんと把握することが重要だと考えております。

質問 現在は、強制的な出勤の停止とかそういうところまでは踏み込まず、呼びかけといったところしか厚労省としてはできない、と？

U はい、そういうことです。

質問 リムジンと航空機以外にこの方は交通機関は使っていないのですか？

U えー、ま、リムジンを降りてからはお家に帰られたということでございますので……まその途中、一般のバスを使われたかどうか、我々のほうはちょっとうかがっておりません。

質問 あ、それを聞いていないんですか？

U はい。それはまた細かいことを。いま患者さんは病院に移られて、病棟の中でやっておりますので、担当者がきちんと確認をいたしましてその状況についてまたさらに皆さまにその、呼びかけをお願いするものを増やすことがあり得るかもしれませんので、それはよろしく願いいたします。

質問 リムジンに乗ったとか朝成田に着いたとか、そのへんは聞けているけれどもそれ以上は聞けていないということ？

U はい。

質問 その聞けている情報というのはどういうところで聞いた話なんですか？

U は？

質問 いつの段階で誰に聞いた話なんですか？

U ……

質問 患者ご本人から聞かれた？

U 患者から病院の者が聞いて、それを東京都のほうに伝えてそれをこちらのほうに、ということでございますので、あの、いわゆる疫学的な、そういう本当の本当の疫学の感染症の専門家が聞いているのではないので、その段階の情報しかございません。

質問 この方は会社の出張でベトナムへ行っているんですよね？

U はい。

質問 その会社のほうへの調査というのは？

U いま担当のほうからかけております。あの、まずはとりあえずいまの段階では、いま時間が時間でございますので、会社のほうも、アジア担当者が捕まりませんので、おそらく明日出勤されてからきちとした話が聞けると思いますので。

質問 昨日7月1日の厚労省で8時ぐらい、都のほうで7時半、そういうレベルでH5というところがわかっているわけですよね。

U はい。

質問 その段階からいま6～8時間経っています。その間に会社のほうに聞いていないということですか？

U そうですね。はい。

質問 え、これ、緊急事態ですよね、わりと？

U 緊急事態ですね。会社は緊急事態とも何とも思っていません。我々としては精いっぱい努力して、あの、

質問 あ、この方の会社のほうは緊急事態だと思っていなくて、ヒアリング調査をしても答えてくれないということですか？

U いやあの、えー、申しわけございませんがいま午前2時ですよ。

質問 いや、午前2時じゃなくて、8時の段階でこういうことがわかったわけですよね。それからこの方の勤める会社のほうにヒアリングとか？

U ええ、あの……会社もですね、時間によってはあの、たとえば我々の役所のようなところでしたら開いているんですけども、えー、む、その担当の方が捕まらないということですよ。

質問 ほう、捕まらない、と。

U これはあの、いま鋭意、その担当の方を捕まえるべく努力しております。

質問 ほう。じゃあその会社はかなり情報が出てこないとかそういった意味での対応がよくできていない会社だということですね？

U あのう、まあ、会社はふつう昼間開いております。

質問 いや、ふつう会社は夜開いていますよ。こういう海外に出張するような会社ですよ。お役所さんも24時間やっているかもしれませんが、こういう会社だってけっこうやっているわけですよ。

U はい。我々としても鋭意努力しております。

質問 じゃあ、それがわからなければ同行者のこともわからない、と。

U はい。

質問 通常の成田の検疫でなぜ引っかけからなかったんですかね？

U あのう、成田でいまできる検疫というのは、あの、患者さんからの申し出、いや、搭乗者からの申し出で何かある、というときに言っていただけるだけですね。たとえば熱があっても咳があっても「何もない」と通り抜けられたら、いまの検疫の状況ではそれを強制してチェックするわけにはいかないんですね。まああの、今後その、サーモグラフィとか体温計とかで測ってください、ということにはできますけれども、強制的に熱を計るとかそういうことはできない状態になってます。そういう意味ではあの、まだ皆さんからもその、入国の際のイエローカードをきちんと書いていただきたいということを周知していただきたいと思います。

質問 現状、成田の検疫はサーモグラフィなどは立てていないんですか？

U あの、いまのところは立てておりませんが、今後検疫体制をどうするかということも含めていま対応しております。

質問 そうですか。この時間なのでもちろん今日の朝からベトナム便、

U はい、とか、タイ便とか入ってきますよね。

質問 入ってくると思うんですけども、その際の対応はいま実際どういうふうにお考えになっているんでしょうか？

U あ、いまこれは検収業務管理室とも打ち合わせております。これにつきましてどういう対応ができるのか、まあ、特にベトナム便とか東南アジア便に対してお一人お一人問診、あの、お話を聞かせていただくのがいいのか、それかサーモグラフィー等が用意できるのかということも含めて、いま検収業務管理室のほうと打ち合わせているところでございます。

質問 いま成田の話が出ていますが、他に、船等も含めて、ベトナムから人が入ってくるということは考えられないんですか？

U あ、これは、船はございます。はい。あのう、この船で入ってくる乗組員の方というのは、もう、実はこれは非常に捕まえるのが難しゅうございます。まあ、あの、我々としましても、外国から入ってくる船につきましてはこれは海の検疫のほうできちんと管理しておりますので、まあ東京検疫所、神戸検疫所とか、海を所管しております検疫所のほうにもその、乗組員に対しての上陸する際の検疫については、いままでは無線検疫とって、無線でやり取りをしまして、いままで過去入ってきた履歴があるところに関してはきちんとできているだろうということに入れるわけですけども、あの、えー、実際に対面での検疫にするかどうか、ちょっとそこのところもいま含めて検収業務管理室で検討させております。

質問 この50才代の男性は成田空港に降り立っていますが、いま海の話が出ましたが、空の便でベトナムから帰ってくるのは成田以外に関西空港？

U 関空がございます。

質問 関空以外には？

U えーっと、すいません、私の知っているかぎりでは成田と関空だと思うんですが、で、福岡はないと思うんですけどね。福岡はあったかな……。

質問 いま、検疫体制の強化は全空港に呼びかけているんですか？

U これはもう、全検疫所です。ええ。で、これはもう成田、ベトナム便だけではなくて、あの、そのベトナムから帰ってこられる方がベトナム便ダイレクトだけではなくて、香港経由とかあの、マニラ経由とか、場合によってはそのシンガポール経由とか、いろんなところに寄って来られる方がございますので、やはりその東南アジア全域から入ってくるまあ飛行機ですね、それについては全部押さえる必要があると考えておりますので、

あの、ベトナム便だけではなくて、あのその経由のあり得る便については同様に対応をとりたいと考えております。

質問 ではそうすると海外から帰ってくる方全員に対して？

U あのう、まあ、全員というか。

質問 あ、東南アジアから。

U やはり東南アジアですね。まあベトナムからドイツ経由で帰ってこられる方まで、というのはアレですので、あの、やはり東南アジア、中国経由を重点的に。

質問 帰ってきたときに成田空港の中で何か食べたり空港の中をある程度移動した可能性
がありますよね。

U はい。

質問 その成田に到着した時間帯に近くにいた人というのはたくさんいたと思います。この方の危険性はないわけではない？

U これはもう、ないわけではございませんので、その方々もできれば、もしご心配ならば保健所のほうへ行っていただければ、と思います。

質問 ごめんなさい、何時でしたっけ、到着したのは？

U えーと、すいません、ちょっとそここのところを。後ほど便名と到着時間、それからリムジンの発車時間について。

質問 保健所のほうに同乗者が行く際に特に注意をしなければならないことは？たとえばマスクをすとかそういうことはあるんですか？

U あ、現在の段階ではその必要はございません。とにかくあの、ご連絡をいただければ、と思っております。

質問 都立立川病院から国際医療センターに搬送される際にアイソレーターで運んだというのを一部の記者が見ているんですが、それは事実と考えてよろしいですか？

U はい。

質問 事実？

U はい。

質問 アイソレーターで運んでいる？

U はい。

質問 ということは、ヒト－ヒト感染の可能性が高いと見ていらっしゃるわけですか？

U いや、あり得る、ということです。可能性が高い低いは別として、あの、この、あの、本邦で初めての H5 の感染でございますので、それがあの、ヒト－ヒト感染のありうるものであった場合のことを考えてそのアイソレーターを使ったということでありまして、その、確定しているから、新型インフルエンザに変異したことが確定したから使ったということではございません。念には念を入れて、ということでございます。

質問 可能性があり得るということは、今後の厚労省の対策としてもヒト－ヒト感染を前提にした対応をするということですか？

U 常に我々としてはこの、世界中で出ている H5 を始めとするインフルエンザにつきましては、あの、ヒト－ヒト感染に変異することがありうるものだと考えて対策を打っております。

質問 先ほど、国民に呼びかけるとおっしゃっていましたが、外国人がそれを聞かない可能性もある。仮にヒト－ヒト感染が発生した場合、いまのままの対策をとっていると状況はどういうふうに移ると思われますか？

U ……えーと、ちょっとご質問の意図がよくわからないのですが。

質問 要するに、外国人が電車に乗って、そこから感染が爆発的に広がる可能性はないと考えていらっしゃいます？

U いや、もしヒト－ヒト感染であった場合、ヒト－ヒト感染に変異していることがわかった場合には、あの……もうその段階の、まあ、いままでの行動計画でいえばフェーズ 4 になる、いまおっしゃられたようなフェーズ 5、フェーズ 6 という場合になるわけですが、そういうふうな場合になったらそれなりの、その段階の対策が変わります。いまちょっとおっしゃいましたような、あの、ここで一緒に同乗された外国人の方が満員電車に乗って、ということでございますが、あの、その……うーん、その段階になればあの、もっとその前の段階で周りの方々に出てははずなんですよ。それは我々としても周りの方が受診されるであろう医療機関、これはもう日本医師会を通じて、この場合東京都医師会がいちばんたくさんになると思いますが、そういう現場の医療機関の方々にきちんとそれを見ていただいて、それを把握していただく、というところから始まると思います。

質問 周りの人がそういうところにかかってそういう段階に移行した、フェーズ5ですか、それが仮にわかっても、その段階ではもう手遅れなわけですね？

U あのう、正直言って、えー、それをあの、いまのこの日本の社会で止めるわけにはいきません。

質問 ということはそれに対してはもう厚労省としては責任はとれない、と？

U 責任がとれないというか、あの、感染症というものは私はそういうものだと思っています。で、それに行かせないためにどうやってきちんと早く見つけて皆さんにそれを周知徹底して、で、それからまたあの、その……人に移す患者さんの対策もありますけれども、それを移されるあの、側の対策というのものもあるわけですよ。実はあの、そちらのほうがまあ、この新型インフルエンザの話が出てきたときから、我々としても、うがい・手洗い・マスクということを通じて皆さんに周知徹底というか、まあお願いしてきたところなんです。この本当に、この基本的なうがい・手洗い・マスクというのが移される側のそれを防御する対策でございますので、それをきちんととっていただく、ということをもう、明日からさっそくやっていきたいと考えております。

質問 うがい・手洗い・マスクをしていればまあそういう患者さんと同じ電車なり車に乗ったとしても移る可能性はない、と？

U ない、とは言えません。それは低くなるだけです。

質問 そういう可能性があるけれども、いまのところ打つ手はない、100%リスクを減らせないということですね？

U それをゼロにすることは不可能だと思っています。それをどう我々は感染症の大流行を小さくしていくのか、というのが我々人間にできる最大のことでと思っています。

質問 病院なんですけど、都立立川病院から搬送されたというのは我々のほうではわかっているわけですし、都立立川病院だということをお認めにならないとしても、それを言えないのはなぜですか？

U あの……まあ、私は都内の医療機関としてしか聞いていませんので。

質問 ああ、担当官としてそれしか聞いていないからということですね。ではもし聞いていたとしたらそれをお話しただけのんですか？

U あのう、これにつきましては、あのう、クラブさんとの、あのう……お話し合いの中で、どういう表現をするかということは決めてあるはずでございますので、それに則つ

て我々のほうとしては、

質問 とは言っても、先ほどのリムジンの話であるとか航空機と同乗者に対しては「一刻も早く伝えていく」というお話がありましたよね。一方、病院にもその患者さんが来た同じ時間帯にたくさんの患者さんが来ているわけです。その人たちに対して周知しなくていいんですか？

U それはその病院のほうからやっています。

質問 病院からですか？

U 病院のほうで、その病院に来られた患者さん、少なくともその同室、同じ病棟の患者さんにつきましては、その病院のほうできちんと観察をしておられますし、そこに受診された方というのは病院のほうで、外来でも病院のほうでいちばん把握できるわけですよ。

質問 外来であっても。はい。

U それはもう病院のほうできちんと把握し、ご連絡をされるというふうに聞いております。

質問 なるほど。すると病院からたくさんの人に情報が伝わるわけですから、都立立川病院だというのはほぼわかってしまう話だと思うんですが？

U まあ、そうかもしれません、はい。

質問 わかりました。じゃあこんなところで。

U はい。またあの、すいません、係のほうから便名とリムジンバスの時間、それから新しい情報がわかり次第、また幹事社さんのほうにご連絡いたしましてご説明をいたします。どうもありがとうございました。

(R3-1 終了)

R-3 U氏 その2

U すいません、ずっとお疲れさまでございます。えーっと、あの、朝 2 時にお話してお

りましたように、この H5 の患者さんの接触者の状況についていままでの調査状況をあの、ちょっと今回の場合資料ございませんが、口頭でお知らせします。

まずあの、飛行機ですけれども、あの、お伝えしましたベトナム航空 640 便でございますが、まあ、そのえー、同乗者リストについてはいまベトナム航空のほうへお願いしている状況でございます。まあ、実際一日ベトナムから平均 4 ないし 5 便ですね、でございます。関空、中部、福岡とございますので、それ全部に対してあの、おー、えー、検疫所を通じてご連絡を申し上げているところでございます。

それから、この患者さんの状況でございますが、ベトナムにおきましてこれは繊維工場、まあ工場の視察のために出張されたということで、同行者がお二人ということでございます。この同行者については、お一人は全く症状がないということで、お一人が発熱等があるということで、現在医療機関を受診しておられるということで、この状況もご家族にお伝えしたうえで、受診をされておるというところでございます。

で、現地のほうで同行した現地の社員の中にその、インフルエンザ様症状で体調が悪かったのがいた、まあ、いらっしゃったということでございます。で、まあ現在、その、まあ同行された現地社員の方の検体につきましては、あの、ベトナム国内のあの、研究所、ウエルカムトラスト熱帯病研究所のほうで、それとパスツール研究所のほうにおいて検体を調べておるということでございます。

まあ、あの、患者さんの状況でございますが、まあ現在、あの、皆さまもご存じのタミフルを投与して、点滴等をつないで治療をしておるということでございます。

またその、立川病院での同室の患者さんということですが、まだ、昨日、まあ昨日の今日でございますのでアレですが、まだいまのところ現在のところ特に症状はないということでございますが、これについては病院のほうでもあの、おー、きちんとフォローしていただくということでございます。

まあ現在のところ、わかっています状況は以上のところでございます。

幹事社 ではいくつか質問させていただきます。確認ですが、ベトナム航空 640 便で帰っていらしたわけですね。

U はい。

幹事社 連絡をされているというのは、全てに対してというのは、この 3 日間ベトナムから帰ってきた飛行機に乗り合わせた人ということですか、それともベトナム便全員に対して？

U えーとですねあの、この 640 便はそうなんですけれども、当然その 640 便に同乗された方は患者さんと一緒に空間に、あれはだいたい 6 時間ぐらいですかね、一緒にいらっしゃったことになりますのでアレなんですけれども、あの、まあ我々としましては、うーん、あの、まあ少なくともその日、まあ、2~3 日前からのベトナムから帰られた、あ

の、お客様に対しては、ということを考えなければならないと思います。もう、その飛行機だけありますけど、ベトナムにいらっしゃった方についてはやはりきちんと何らかのメッセージを我々としては出さないといけないと思っております。ただその、把握が非常に難しいんですね。えー、ですからちょっとそれをどうするか、またこれまた皆様をお願いしてですね、あの、まあ近々ベトナムを旅行された方々は保健所にご相談ください、ということ、保健所の体制をさらに整えてですね、お願いをしたいと思っておりますのでまたよろしく申し上げます。

幹事社 それはよくわかりました。2～3日中にベトナムから帰った方は厚労省・政府ではどういうやり方で捕捉するのですか？

U えーとですね、あの……これはそのイエローカードにきちんと書いてある方は出てきます。それから航空会社等でいわゆる団体旅行等で把握できる方は可能なんですけど、あの、正直言ってそれ以外の方々、今朝もご質問ございましたが、外国人旅行社でマスコミ報道なんかを見れない方については、実はこれは把握できないんですね。しかしながらまあ、いろいろな形でその、お話を、まあ、メディアに出していただくことによって、そういう方々にも注意喚起をしていただくという、その間接的な注意喚起しかちょっと我々のほうでも方法がないのが実情です。

幹事社 次に、先ほどから出ている患者さんに同行された2名のうち、1名は発熱しているということ。この方はどちらのどういう方なんでしょうか。

U 同じ会社の方、お二人とも同じ会社の方だと聞いております。

幹事社 お住まいは？

U それはあの、我々は、うー、確認しておりません。

幹事社 確認できない？

U あ、すみません（笑）、ちょっとごめんなさい、あの、お住まいにつきましてはあの、それも確認しておりますが、こちらでは発表を差し控えさせていただきます。きちんとあの、我々のほうで、担当の地区の保健所がその患者さんを把握して、これ、立川保健所の人と一緒にその方をフォローしているという状況でございます。

幹事社 はあ。その差し控えている理由というのは？

U え、あの、これはもう個人の情報に関することでございますので。

幹事社 個人の情報？ その患者さんの？

U そうですね。

幹事社 その患者さんの近くに住んでいる方とか、この患者さんが成田空港から家まで帰ったルートとか、そういうのは把握されているんですよね？

U はい。

幹事社 それに同乗した人がまたいるかもしれないし、近隣の人だとか、そういう人は自分じゃないかと不安になると思いますが？

U それはH5であるということがわかった時点ですぐに対応したいと考えております。

幹事社 いまのところはまだ知らないほうがいい、と？

U 特にこれ、感染症の患者さんにつきまして、この方が患者さんであるということをおい、大々的に喧伝するということは、逆にその患者さんのプライバシーというか、に反するものだと考えております。

幹事社 もうすでに川崎市のほうだとかいう噂も流れていますけれども、それは否定しなくていいですか？

U あのう、

幹事社 確度が高い情報だということで Web 上などでは。

U それはもう札幌かもしれませんし福岡かもしれませんし、まあどこかわかりませんが。

幹事社 はい。あと、元々最初に発症した人の状況ですが、体調が昨日よりも悪化している？

U あ、ベトナムの？

幹事社 ええ、ベトナムから帰ってきた……あ、現地社員ですね、現地社員が非常に体調が悪いということですが。

U はい、聞いております。

幹事社 どのような状況なんですか？

U まこれはもう肺炎ですからね、まあ熱が出て、熱が出て咳とか痰とか。

幹事社 同じような状況？

U まあ同じような状況ですね。

幹事社 この方が発症したのはいつごろなんですか？ 日本に帰ってきた人が発症したタイ

ミングよりも前?

U よりも前、前に発症されていたということです。

幹事社 はあ。

U で、その体調不良にも拘わらず出てきて、この患者さんの、日本からの出張された方に同行した、というふうに聞いております。

幹事社 体調が悪いのに同行してしまった?

U そうですね。

幹事社 わかりました。ではその方は、日本に帰ってきた方と長い時間一緒にいたわけですね?

U うーん、まあそうですね。

幹事社 するとそこでベトナム人の方から移された可能性もあるということですか?

U それはもう否定できません、ええ。

幹事社 わかりました。立川病院ということでよろしいですね?

U (笑) ちょっとそれは。すいません。

幹事社 他に何かあれば。

質問 いまその50才の男性に同行したうちの片方が発熱して病院を受診中だということですが、これは入院しているということなんでしょうか?

U いや、えー、受診されているとしか我々は聞いておりません。現在外来受診中ということ。

質問 外来受診中。

U それで即入院になるかどうかはまだ聞いておりません。

質問 そうですか。わかりました。もうお一方なんです、インフルエンザの症状がないということで、いま現在どうされているんでしょうか?

U あのう……

質問 要はどういう対応をされているか、ということなんです。

U 全く症状がないということで、あの、えー……………あの、まあ会社のほうからは、待機を命ぜられている、と。

質問 待機?

U まあ、自宅で。

質問 自宅。

U はい。

質問 1回目の会見のときにもありましたが、濃厚接触者について、病院の関係者の方々等もいまは自宅待機という形をとっているのでしょうか。インフルエンザの症状はないけれども濃厚接触者ということなので、現状どうされているのかな、と思ひまして。

U いや、あの、病院の方々はこの、ふつうに勤務しておられます。

質問 ああ、そうですか? それは大丈夫なんですか? 潜伏期間が1週間あるという話でしたが、いまの段階で症状がないけれど、もし感染していて潜伏期間中だということになれば、外来で来た患者さんや入院中の患者さんなんかにも感染するという可能性はないのでしょうか?

U あのう、これは全くゼロとは言えませんが、昨日接触された病棟の患者さんとかそういう方々がもう全てあの、現場から外れていただく、ということはこれは事実上不可能です。

質問 不可能?

U 不可能です。

質問 それはなぜですか?

U 病院が動かなくなります。他の患者さんがいらっしゃいます。

質問 ふーん……。

U で、先ほど言いましたように、移す側だけの問題じゃなくて、移される側の体調とかもあるわけですね。ですから、この病院の職員の方々には、この方々こそ逆にきちんとうがい・手洗いをきちんとしていただいて、これはもう一般の方々でもそうなんですけれども、やはり体調が悪いと、これ、感染症というのはすべからず体調が悪いと、体が弱っていると入ってくるわけですね、ですからいわゆる深酒とか睡眠不足とか。そういうときに、あの、風邪を引きやすいというのと同じですので、あの、これはその病院の職員の方々も健康管理をきちんとしていただいて、そういう可能性があるからこそきち

んと健康管理をしていただいて、あの、えー、他の患者さんへの対応がありますので、うーん、きちんとした対応をお願いしたいということです。

質問 ごめんなさい、体調が悪いから病院に行くんですよね？

U 体調が悪いから、ですね、はい。いま私が申し上げたのは病院の職員ですね。

質問 でもあれですよね、病院がべつに一つ休止したとしても周りにいくらでもありますよね。そこから仮に何十万人も患者が発生したらぜんぜん割りに合わないじゃないですか？ 何らか対策とるべきじゃないんですか？

U 病院が、いまおっしゃいましたことは、病院にいま入院している患者さん、それをすぐ他の病院へ移すということは不可能です。

質問 え、いま、先ほどのお話ですとふつうに営業しているわけですよね、都立立川病院は。

U ……うん、そうですね、はい。

質問 それは大丈夫なんですか、知らずに、たとえば風邪を引いた一般の体調の悪い人とかが立川病院に行きますよね、そこからどんどん広がっていくんじゃないですか？

U それにつきましては、きちんとそういう方、接触された患者さんは、いや、接触された職員はそういう外来には行かせないとか、そういう形はまた病院のほうで考えられると思います。

質問 考えられると思います、ということは、それはもう病院に任せているということ？

U それはもう、病院がどんな運営をするか、どういう対策をとるのかということはこれはもう病院で一義的に判断をしていただかなきゃならないことで、病院の院長さんの責任で、病院の方々もこれは医療の専門家なんですから、きちんと感染源なり、うー、我々のご相談をしていただいて、どういうことをするかということをやっていただかなければならないと思います。

質問 患者が広がったら何十万人にもなるわけですよね？!

U あの、

質問 そのときに国として病院に任せっぱなしというのはどうなんですかね？

U それはその病院を、うーうー、一つ閉鎖するというので、その病院を閉鎖することで感染が完全に止まるんでしたらそれはすぐにやるべきだと思います。

質問 うん。先ほど、できるだけことはやるとおっしゃっていましたが、とてもなんか